

秋近

傾城替  
 六月廿八日とちる子四派海  
 鏡見そめるや遊女の秋をま  
 秋を七多ある小傾城  
 ありや海の竹んもの秋をま  
 松が根に小も花をく 秋陳碧○  
 山里の秋を陳にまをく  
 仙公さあし時物ある後身帯を枕周に替へて  
 秋色 枯根を替るふれい

夏雑

黒塚や人華にあらざる夏の蜂  
 懐らしや夏を肥たる十依城  
 根岸まな  
 十茶や茶熟や若花や庵の庭  
 葛の根石た畑い  
 人屠のメハ花もまて 夏さ  
 仙甚至南山園  
 四方から青みし夏のあめい  
 関山哉  
 はの晴きとんねるわけが夏さ





夏

この夕暮立つとふふ  
 ずん 夏を流すわ景上河  
 酒田の平松館 東の家屋無き並べ  
西の大海岸とて降を  
 前後 熱さ涼 さ半分つ  
 瘧疾の時達摩の像子書して  
 比暮を我と達摩の字を  
 南洋人の物園を送るると  
 椰子の陰に語れ牡丹を芍薬を  
 山を入れ何さい こそ夏景色  
 やぶ入や真書中の閻魔鬼を

短夜

夏

短夜の中あゆましく足先の  
 短夜の中あゆましく早出おきけり  
 短夜の中あゆましく牛車  
~~短夜の中あゆましく松篋~~  
 短夜の中あゆましく仁王  
 短夜の中あゆましくあたらしね  
 短夜の中あゆましく信天山  
 短夜の中あゆましく一花  
 短夜の中あゆましく心みけり  
 短夜の中あゆましく東より





夏夜

指の尾の短杖のけぬ甚も不

朝妻舟賛

短杖の波のた乃き早

甘芳原

短杖の大門にぬけし

傾城賛

たのむれをぬくのやす

傾城をよぶ夢妻のぬくのけぬ

猫鼠画賛

多うしききりしをぬくのぬ

燕

あらし聖た<sup>西</sup>入日のほろあつ

松陰いとし<sup>西</sup>残すしりりさかぬ

送秋山直之、英国

燕い日は思ひ出たせし

燕さけ八百八軒あはれ

病中

くうううううううううう

大の子のうまに花のうまに

雀のうまに花のうまに

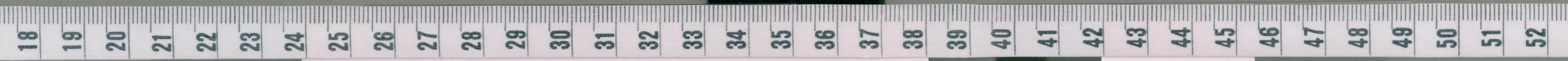
うまのうまに花のうまに



尖くふいじの風乃あつさ  
 岩代におねえ  
 翁曲りまがしつらり  
 掛まをのほろりまゆるあつさ  
 雨雲のあたるらるるりさ  
 白くねえあつさ  
 ぬきねのあつさ  
 書けたあつさ

夏夜

~~あつさ~~  
~~あつさ~~  
 雨のあつさ  
 旅中  
 我らへい茶代も出たあつさ  
 ●市  
 やせ馬のあつさ  
 ーあつさ  
~~あつさ~~





仙臺愛宕山つおとし

小天狗のお子息つく熱さあな

~~あつたての~~ 本陣の陣

広先子車夫汗くよま熱い

~~車夫が懐の~~ 懐の

車夫歎

あつたての

旅中山の清水山持自具得を度ひ

をを華のいふあびてれいかなわく

~~あつたての~~ 手着物に

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

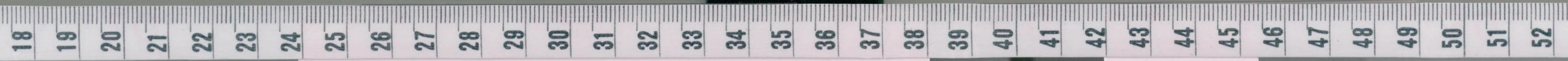
あつたての

あつたての



牛部に在るに一日も一ももぬき  
ゆき風の音も聞かぬもぬき  
せつりれをあらうもぬき  
~~かたなる本にし~~ 帽せしむり  
折たなる本にし 帽せしむり  
洋大の年を毎にたるなり  
のら大の年を毎にたるなり  
ふりの座に沈むりなり  
むらぬり 一本でいせよなり

腹痛れ居らぬぬき  
こちのいし所あらぬぬき  
旅客のいし  
くじりれをまらひぬき  
あつらぬや 天竺牡丹のぬき  
金魚のいし ぼりぬき  
~~かたなる本にし~~ 帽せしむり  
裸足のぬき たいくぬき





ひがわれを甚なまき 後の無きよ 〇

~~かたはた 木はたけり ね~~

~~松のたけり ね~~

~~松のたけり ね~~

~~松のたけり ね~~

庭石をさすのうあたゝあつとん

原石より定つこのは向はれ

寺の徳の心を人あつ 砂の洞

天竺のいふ 浅田まき ね

あつとん 心百八分 ね

~~奥の石にちりて ね~~

ねりす子のほろあつ 石の上

川の所より ねりす子のほろあつ

ねりす子のほろあつ ね

~~ねりす子のほろあつ ね~~

上ねりす子のほろあつ ね

ねりす子のほろあつ ね

~~ねりす子のほろあつ ね~~

あつとん ねりす子のほろあつ

~~ねりす子のほろあつ ね~~





清きものしりしあがりし ~~あがりし~~

~~あがりし~~ ~~あがりし~~ ~~あがりし~~

湯杖のさげれん懸し一休み

油画の彩り色多きけりけり

~~あがりし~~ ~~あがりし~~ ~~あがりし~~

漸くそゝあがり人なきあがり

小急の棧棧をのぞく異は

陀羅一つこれと見えは世に

入おを今うら ~~あがりし~~

~~あがりし~~ ~~あがりし~~ ~~あがりし~~

危根草のり陰へよるけり

さつもの蒲団本枕はあがり

~~あがりし~~ ~~あがりし~~ ~~あがりし~~

~~あがりし~~ ~~あがりし~~ ~~あがりし~~

上窓に内あがりしあがり

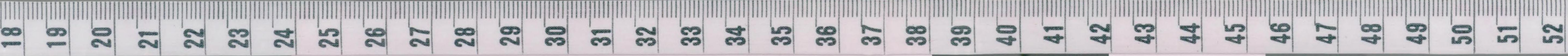
~~あがりし~~ ~~あがりし~~ ~~あがりし~~

あつかりねむいあがりぬ女客

あがりぬぬ女の田舎のあがり

似年よりわりのなま ~~あがりし~~

~~あがりし~~ ~~あがりし~~ ~~あがりし~~





紙のすきかたあつしうりた  
あつしうりたあつしうりた  
あつしうりたあつしうりた  
あつしうりたあつしうりた  
あつしうりたあつしうりた

真白に石一色やまのりうりた

~~あつしうりたあつしうりた~~

観音に人はのりうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

~~あつしうりたあつしうりた~~

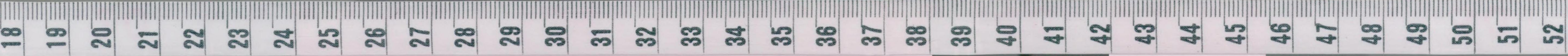
あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた

あつしうりたあつしうりた









炎天

牛肉の湯にいろいろと煮込んで  
~~煮立てるのを~~煮たあつた  
~~中~~電燈の灯の  
~~光~~光のまをりりあつた  
炎天のまじやあくとに流  
炎天の中にはいろいろとあま  
炎天の中は車の砂鉄の  
炎天の中はあつたあつた  
炎天の中はあつたあつた

〇

炎天をわくわくあつたあつた

物干しにあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

炎天山隧道

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつた

日盛

あつたあつたあつたあつた



早

土用

夫天

日さのした兵卒きり仲の舟

夕虹の雨ちかたにいとま日干沙

松冷の松見たにけりん土用の入

~~松冷の松見たにけりん土用の入~~

板の雲の青くそ細き土用は

松冷たに用をもりの土用は

~~松冷たに用をもりの土用は~~

~~松冷たに用をもりの土用は~~

涼

涼さる周の夜中乃水北音

夜もよけぬ妻も寝たぬ行原

涼原 折紙ちかたて枕に

涼さる音をあす杉虫月

あさりのやぬくすしとるの月

涼原をぬみがる籠の中

涼原をぬみがる籠の中

すきと西文にやうく返す

宇法懐古

原けわ川みちる守馬のぼ



嵐山

源 長崎の松楓か耶

太神宮

杉木立たつてものこらしし

人よ対して

源 ちかきるるれまの海乃中

么米平内像

下 ちかき平内石とありまじり

松山會

~~源 ちかきるるれまの海乃中~~

硯賛

す ちかきるるれまの海乃中

源 ちかきるるれまの海乃中

下 ちかきるるれまの海乃中

源 ちかきるるれまの海乃中

下 ちかきるるれまの海乃中

源 ちかきるるれまの海乃中

其氏真一云

源 ちかきるるれまの海乃中

下 ちかきるるれまの海乃中

瑠璃の





素香お松ニ氏用施

すーあわんに二人のさすまはり

あはれしこころしーあはれの杜江

園原一川の向ふ乃笑ひ多

原一を踏も動み松の先

ある人のまゝ

あ人もはるはあのみまゝ

あまのまゝ一人信り入の海

あまのまゝあはれつゝあはれの海

あまのまゝあはれつゝあはれの海

流一あ月言退いへる世の子

白河源氏城址

すーああはれつゝあはれの海

あはれつゝあはれの海

あはれつゝあはれの海

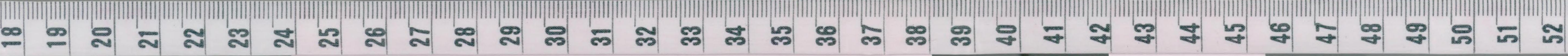
浅香江

すーあはれつゝあはれの海

あはれつゝあはれの海

二本松満福寺

あはれつゝあはれの海





黒塚 三白

木下園ありら原やあらーわ

すーさわすけむ昔ハ鬼の氣

満福寺の宿りて

市佛に在むけ店ハ月源し

寺に在る才のさるとは月源し

迷ふし

郊外

月源 陸の 夢の わきあがり

舟のさの 原し 更なる地なる

すーさわすけむ昔ハ鬼の氣

福崎の園歌を

んせむ月にしーわ四千軒

福崎の園歌の左端を

原のさの 原し 更なる地なる

うみけし原し けのさの 大原

十綱の物

つり物に 龍の 原し くのけり

山代園湯野村

すーさわすけむ昔ハ鬼の氣

原し くのけり 月源し



七月廿一日代飯沼島期<sup>長</sup>中の白

原<sup>上</sup>羽生<sup>渡</sup>さうな<sup>下</sup>腋の下

笠<sup>鳥</sup>乃<sup>社</sup>神<sup>に</sup>て

え<sup>は</sup>た<sup>な</sup>強<sup>ま</sup>し<sup>の</sup>れ<sup>と</sup>行<sup>く</sup>

塩<sup>家</sup>お<sup>は</sup>し<sup>り</sup>浦<sup>口</sup>を<sup>り</sup>ぐ<sup>ら</sup>て

原<sup>上</sup>の<sup>松</sup>あり<sup>う</sup>つ<sup>ま</sup>き<sup>あ</sup>り<sup>ゆ</sup>り

と<sup>離</sup>り<sup>侍</sup>

原<sup>上</sup>の<sup>こ</sup>こ<sup>を</sup>扇<sup>の</sup>か<sup>り</sup>の<sup>か</sup>わ<sup>り</sup>

原<sup>上</sup>の<sup>や</sup>の<sup>も</sup>あ<sup>え</sup>な<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>

原<sup>上</sup>の<sup>松</sup>あり<sup>う</sup>つ<sup>ま</sup>き<sup>あ</sup>り<sup>ゆ</sup>り

塩<sup>家</sup>の<sup>浦</sup>を<sup>り</sup>

の<sup>松</sup>あり<sup>う</sup>つ<sup>ま</sup>き<sup>あ</sup>り<sup>ゆ</sup>り

松<sup>嶋</sup>雜<sup>詠</sup>

す<sup>し</sup>の<sup>眼</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>

す<sup>し</sup>の<sup>眼</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>

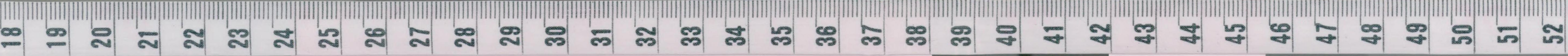
す<sup>し</sup>の<sup>眼</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>

す<sup>し</sup>の<sup>眼</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>

す<sup>し</sup>の<sup>眼</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>

す<sup>し</sup>の<sup>眼</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>

す<sup>し</sup>の<sup>眼</sup>に<sup>あ</sup>り<sup>て</sup>わ<sup>ら</sup>ぬ<sup>松</sup>の<sup>先</sup>





松島

○

原一舟に月なまき松島

原一舟のあしき松島

すーすー松島かみき松一つ

すーすー松島かみき松一つ

すーすー松島かみき松一つ

すーすー松島かみき松一つ

すーすー松島かみき松一つ

松島観月楼

すーすー松島かみき松一つ

瑞岩寺

古寺 瑞岩寺

瑞岩寺 瑞岩寺

松島五大堂

松島五大堂

松島五大堂

松島五大堂

松島五大堂

松島五大堂

松島五大堂



雄鳴

~~山崎の松林の影も何木も~~

山崎の松林に けしきも

富山此雲岡より松崎の松林

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

仙臺南山岡

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも

山崎の松林に けしきも



二階よりつらつら木<sup>赤</sup>の葉が風流し  
南山<sup>南</sup>の山

すくすく北山のふもとに

~~あつちの山~~  
槐園にふたつ山を峰す

すくすくを君一人にまじりて

原<sup>赤</sup>の山の下を流る川つら

る子歌のけりた原一本下

月原の流の~~あつち~~と雲を流す

上下の流の中なる袖すくすく

作並温泉 四白

原<sup>赤</sup>の山に水もく流るあつち

ちろくとも井火原<sup>赤</sup>やじの家

原<sup>赤</sup>の山に流るあつち

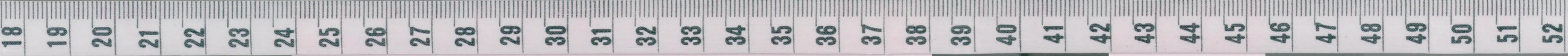
つらあけを流すあつち

あつちの流

あつちの流

あつちの流

あつちの流





寒山落木の影をさす

雪の影をさす

雪はくもをさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす

雪の影をさす







白拍子賛

月原一水干家さるす

○

原す布裡でこゆる管根山

碧○

草枕原一三千の姫小松

原さる大井有るも

原さ初上まよ下まの

布袋原一袋のんさ

~~原さる丸あつた~~

原さるゆにゆるり

原さる言流すや寺

原さる

藤原

大甲

川狩

井

湖

山三方 夢をまきと雲原

風吹こちらり

原さる草をまきと

原さる吹と尻原

原さる

原さる

原さる

原さる

原さる

原さる

原さる

原さる



照射

雨雲のうらら照りぬす照射  
一里来て二里来て三里来て  
似城の夢に照りぬす照射  
龍心の狐の吐きよめて  
獲物多き照射の夢にあふり

火串

火串あつて闇の真中をさぐり  
鳥羽玉の闇の色なきあふ鴉川  
凡ては舞のうららき鴉川

鴉飼

傾城の娘も鴉飼  
鴉飼舟にあふりぬす  
面白やとつと放てばあふ鴉飼  
晝の鴉飼の末てとるあふり牛の脚  
闇の夜を鴉飼の妻の泣くぬす

川狩

川狩や縁指さして水乃中  
藻を刈るや女にはぬすのら狐  
藻川舟あふりぬす

藻川舟

藻川舟あふりぬす





真菰川

物いへむ女なりけし真菰川  
此菰員をせし生菰をもてぬ真菰川

田植

兼平の塚を目あてに田植  
赤坂の市油へづく田植  
日焼田に足見末なくも田植  
此之を着て誰に田植の落化粧  
鳩有者書いあふも田植  
此田に  
此田に

早乙女

画ののけむさあをり  
さあをり  
さあをり  
さあをり  
さあをり  
さあをり  
さあをり

田草取

海車りくわしんとする田草取  
此草も三草草のあはれ

竹植

竹植るていれあはれ





薬日

薬草のしるしを伴ひく子供のふ  
まらや市原の屋根の承露盤

菖蒲川

市産取て菖蒲川らりよは流干瀉

菖蒲く

菖蒲くや草にけりけりたる屋根の上

菖蒲くを念の女に名をみけり

菖蒲いて岡崎女郎の菖蒲りけり

あつたの池乃雲やあまのりやあ

風吹て雲のさすちあああ

菖蒲湯

菖蒲湯の中に入りー菖蒲川

菖蒲酒

屋原ハ下入りけりし菖蒲酒

菖蒲太刀

りりりきんありきわ菖蒲太刀

幟

○ 幟たる、山嵐のはききありりり

○ 雨雲をささるる嵐の幟りれ

碧

○

たてしらすあつらも風や艸幟



藥

送徳男之周防

山里の幟見て来よ 京男

藥玉

藥玉のふきあけはくもいし  
藥玉にのりけんうせたる先

粽

いふはがし 赤毛の  
紙をわらわらうやく 粽外  
露るこころあうの 世 粽  
風吹て 粽のあくはる

印地打

正重の子や男女こゝれを 印地打

騎射

騎射の画 矢の 筋物  
あつめて 物

競馬

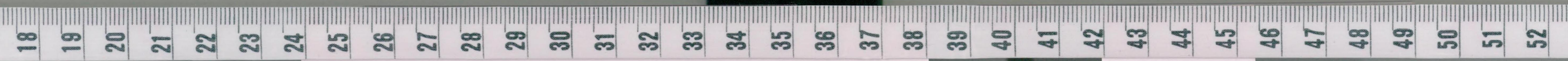
凡吹そはこりにいさむ 競馬外

大矢敷

大矢敷中にまぶらて山法師

鞍馬

いかにいかに 鞍馬の外代





花御堂

花御堂のすまじのたのむらん

花御堂のすまじのたのむらん

花御堂

花御堂のすまじのたのむらん

花御堂

王城の見事にあまてふ花御堂  
大佛の禁に依りて花御堂

竿のつと凡つて花御堂のつと

夏詠

夏の詠に 煙とて 壳のあらんなり  
夏の詠に 煙とて 壳のあらんなり

二人ならん夏の詠とていひたり  
君の今夏の詠に詠るもいひたり

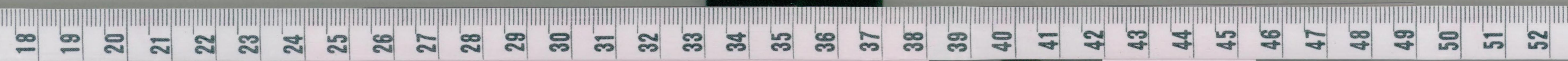
置物甚昼積

夏の詠の成るにむすの早の上

夏書

穢多の子のわがしのつとて夏書

花御堂のすまじのたのむらん





夏断

夏断のついでに...

出干

出干の牛を飼つたる先祖あり

出干の幻住庵乃義と公望

出干の辰蔵乃義乃公望

出干の...

出干の...

出干の...

出干の...

出干の...

夏断

夏断のついでに...

二月

瑞山石寺

○ 政宗の肥も...

雨乞

雨乞の歌...

晝寝

晝寝のついでに...

晝寝の...

晝寝の...

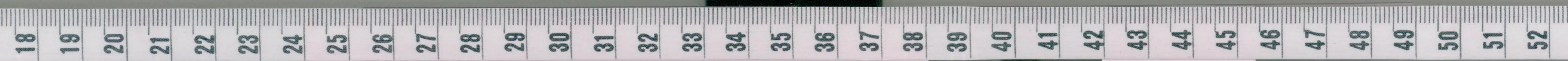
晝寝の...

夏断

夏断のついでに...

○

夏断の...





富士詣

富士垣離

傾城の書おこあつし金命凡  
不二詣水巻月の雲に舞もいれ  
不二詣鳥の鳴いぬ新清し  
短衣の限りきんぐり不二詣  
凡もも夢の下たより不二詣  
~~山崎の~~ 紅の朝日さし下不二詣  
うたわの夢よ舞をちりく頭の不こ  
帳一つはぬ下界と見えそ不二詣  
不二詣離たゆまの夢をほひり

祭

遊泳

病老の跡くまてぬる祭  
夕立の文とぬけたる祭  
~~影の~~ 根  
錦着て牛の汗かく祭  
牛のい下京の祭の 根

仙臺山眺望  
川中にあるさうへておぼし



祇園會

後をききわらふくの人のか  
祇園會多中 瑞の上平 京の月  
月降や 文に結ふ乙鳥  
入おのちりわく上を降の兒

瑠石

晒井

晒一井也 晒瓶たわぶ五年射  
晒一井也 晒川きあまゝ表たに

〇

筑摩會

筑摩會  
筑摩會  
筑摩會

〇

納涼

不二んえそ公の見梅の海みし  
葎かり川 葎をさしめぬ海みし  
根さなるい 葎にもさして瑞降  
黄山谷 経代は初詩

群青畫

群青畫  
群青畫  
群青畫  
群青畫  
群青畫



山僧の市へ出でたる 純源じゆんげん  
松崎一見せんを 上印の律

こよりのし

みちのくへ 涼まなねんつち下はらた

二本松満福寺

夜一まに 偈と二人の涼りやう

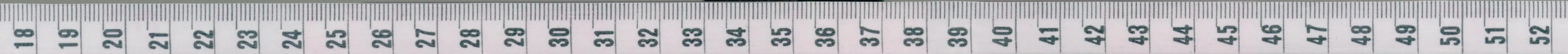
福嶋

公園に旅人ひさる涼りやう

~~臨みし事と訪ふ事~~

~~下は山に~~

飯沼澄水いひぬまは十三七の女者ありて 彼  
りた 公園のるなどゆくとけをいせハ  
流統の志ありとら子 御地は 似合りぬ  
志をあらが 流りやう ちとすつ いた其  
● 名をいふ 中ちゆう 花とて人 谷や 川がは  
平花へい 花はな 子こ あありが 流りやう 子こ みりれ  
其の流りやう 子こ 色いろ 入い 他た 色いろ 見み  
りきつ 子こ 名な おちつ 子こ 名な 見え  
仙せん 人にん 見み 子こ 持も 持も 子こ  
月つき 子こ 名な 魂たま 松まつ 崎さき 子こ 名な 見み 子こ





松崎 二句

~~清の春をいづては~~

~~鳴るはつゆの音をきく~~

松崎の春をいづては

~~春の音もあはれ~~

も火の音うらみなく

松崎の春をいづては

春の音もあはれ

うらみなく

松崎の春をいづては

松崎 観瀑寺に遊びて豊原伊吉

あはれを懐ふ

あはれとなま魂にまては

なま人をあはれに

松崎 五太夫

松の本を叩いておはれ

富美 観音にて

松崎の春をいづては

春の音もあはれ

~~松崎の春をいづては~~







夏の輪

澁の川

何城やあるに買ひつて夕涼に  
松をつんで頭風の風や夕涼に  
川中に二人立たり夕涼に  
低岸の海をくると夕涼に  
旅人の心と通り夕涼に 船  
城跡をよも夕涼に 石の下  
~~夕涼に夕涼に夕涼に夕涼に~~  
食事をとせ夕涼に夕涼に夕涼に  
根岸  
夏の夕涼の多し夕涼に

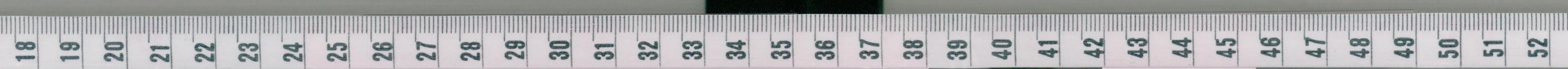
夏夜

座頭納涼

夏にも流るる夕涼に  
酒田翠松被る夕涼に  
松の本に松打さけて夕涼に  
夕涼に夕涼に夕涼に夕涼に  
風船に夕涼に夕涼に夕涼に  
夕涼に夕涼に夕涼に夕涼に  
夕涼に夕涼に夕涼に夕涼に  
夕涼に夕涼に夕涼に夕涼に

打水

打水に小夜小夜の白ひし  
打水に夕涼に夕涼に夕涼に





水

武國

御後

打水の中を採らばす大柄杓  
打水の力ぬけたる柳  
水くまぬ大の書集に

藤のままたかゝる市都内は後川  
午引て西よりくる市後川  
瓜とく後の中ころ市後川  
水上の文とく後川  
風吹ては虹をくく市後川

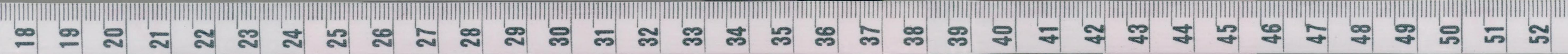
昔の輪

夏瘦

昔の輪の先がけりる昔の輪

夏瘦を初なるはくも遊女  
夏瘦を風よ吹かすは衣  
~~夏瘦を人の心かき~~  
夏瘦をさす医者をふらん  
夏瘦をさす女をふらん  
夏瘦の中よりたらしき  
夏瘦の傍にたらしき  
夏瘦のつらさるる

行状





御杖

汗流

世々の海

~~世々の海~~

夏鷹の沖に伏し山を渡るが如

作並温泉

夏流のまじりもどろろ流るる

鬼の痛しきもどろろ流るる

夏流のぬに汗しや痛むる

~~汗流~~

汗流の山陰のけむ風もどろ

~~汗流~~

~~汗流~~

汗流のまじりもどろろ流るる

汗流のまじりもどろろ流るる

汗流のまじりもどろろ流るる

夏流のまじりもどろろ流るる

夏流のまじりもどろろ流るる

汗流のまじりもどろろ流るる

汗流のまじりもどろろ流るる

汗拭

夏流

汗

汗拭をまじりもどろろ流るる

汗拭をまじりもどろろ流るる

汗拭をまじりもどろろ流るる

汗拭をまじりもどろろ流るる



刊

更衣

くしらきもおもしろく汗拭

風吹てぬぐんともろふ衣かへ

天竺の佛の何をも衣かへ

ぬぐへけりてでもり衣かへ

ぬぐへぬきを平すちちぬぐへぬぐへ

ぬぐへにちちぬぐへ衣かへ

ぬぐへぬぐへぬぐへ衣かへ

何ゆきともぬぐへぬぐへ衣かへ

紳子

衾

浴衣

衾のぬぐへぬぐへぬぐへ

ぬぐへぬぐへぬぐへぬぐへ

衣かへぬぐへぬぐへぬぐへ

ぬぐへぬぐへぬぐへぬぐへ

ぬぐへぬぐへぬぐへぬぐへ

ぬぐへぬぐへぬぐへぬぐへ

ぬぐへぬぐへぬぐへぬぐへ

ぬぐへぬぐへぬぐへぬぐへ

ぬぐへぬぐへぬぐへぬぐへ



白守

白守の肩に白守の白守

単衣

山風やえんぬもすくよふの

更衣

更衣の目別

袴

松崎の尻に穿つる人さの

袴

実方の女をたもつてく水師のかま

袴

藤衣ひきつるわれを護り給へ

帷子

川風にほろ帷子のしきり

公草

帷子をこぼし川のしきり

浴衣

帷子のしきりよのしきり

浴衣

家並に娘のしたる浴衣は

竹垣

おどろいた浴衣のしきり

辻

おどろいた辻のしきり

掛香

おどろいた掛香のしきり

掛香

おどろいた掛香のしきり





葉

松をたむせぬ親のた息女

青空

けりてこゝろのさしすす

巾着の杓束さしすすも青空

ひきまゝのくさや青空

低地ひきまゝのくさや青空

青空娘をいぬ家なり

松山會

伊勢のくさやあひく青空

心算

心算のくさやあひく

心算のくさやあひく

心算のくさやあひく

竹婦人

竹婦人のくさやあひく

竹婦人のくさやあひく

竹婦人のくさやあひく

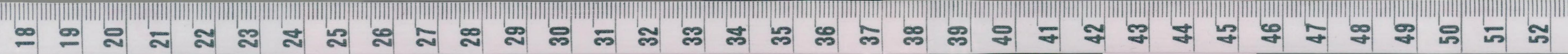
竹婦人のくさやあひく

竹婦人のくさやあひく

竹

竹のくさやあひく

碧〇





蚊遣

青い本  
たぬき  
21501

園より身ひこころのちきり  
神木の魂にもさぶちきり  
山寺より方よ保まらぬちきり  
大津路の赤鬼りぶちきり  
サ葱の事たふしちきり  
似坪のさくさくちきり  
船のつらぬちきり  
何野のちきり  
似坪のちきり  
門のちきり  
ちきり

○ちきり

蚊遣

園のちきり  
画に誰の廻りのちきり  
園のちきり  
ちきり  
見事のちきり  
ちきり  
ちきり  
松守  
ちきり

○ちきり



蚊帳

おきたに宿のしほり色も

一画替へ

能因画替

能因画替

蚊帳のや長柄の物の鏡層

蚊帳

片原へ机の下の蚊帳

○ 瘡あてまきりのしほり蚊帳外碧○

はらへんに林檎くふし蚊帳の中

團扇

蚊帳つれを蚊帳に鳴く松の風

紙帳

紙帳のえ及たすの紙帳

幌叩

山寺の庫裏のしほり叩

寺の庫裏に河を入れたる紙帳

山寺のしほりのしほり



扇

扇

扇

蚊帳

扇の男もかたじけなく

扇の女もかたじけなく

扇の老もかたじけなく

扇の若もかたじけなく

扇の貴もかたじけなく

扇の賤もかたじけなく

扇の富もかたじけなく

扇の貧もかたじけなく

扇の病もかたじけなく

扇の死もかたじけなく

扇

扇

扇

扇

扇

扇

扇のたて

扇のたて

扇のたて

扇のたて

扇のたて

扇のたて

扇のたて

扇のたて

扇のたて

扇のたて



●若地月之節の凡に之意りりり

日傘  
豆屋まゝ女なまじん 日傘

新茶  
京へ出る新茶の若かりし園子  
旅宿をよむこむ 店の新茶

大茶  
壺の唐たたくやたき茶のふゆ

相餅  
依城のあつや思ふ 相餅

鮎  
鎌倉や誰が石すゝを鮎の壁

人問り 鮎屋のま衣と答ふべし

旅宿よ 鮎魚といをよまうらな

鮎の壁

鮎の壁

鮎の壁

鮎の壁

青き  
青きや清少納言のてまり

夜酒  
かきつる月しよふ 夜酒





夏氷

氷屋に白まぶ中の小提灯  
木にうける氷の旗や着い茶を  
~~作法の端み砕きすす氷~~

病中

夏あたらしくしたる命

仙臺愛宕山

叶き人見ゆわれハ氷水

本庄古雪川

氷賣り徳の袂乃とも

氷餅

傾城の榎をいかに氷餅

氷夢

氷夢家子宿い世鬼のわらわらぬが

冷汁

氷汁のりまきん冷汁

洗飯

氷汁ちき卯木の板を洗い飯

満福寺に宿此寺にて義経飯を

○氷飯や并度飯の喰ひ跡し  
碧石○











御なやまも五月雨  
道ふさぐゆのたつと五月雨  
壁をもも牛の白い下五月雨  
鷺を飛で牛居る澤や五月雨  
五月雨の衣れを長す夜寝る  
面白廿牛のこゝしりも五月雨  
五月雨和島にならぶ杉の女  
~~五月雨の衣れを長す夜寝る~~  
五月雨た雨のこゝしりも五月雨  
五月雨和島にならぶ杉の女

五月雨  
風吹て晴れんとすし五月雨  
~~五月雨~~  
入あつて五月雨  
りつきた多あつた五月雨  
瘧疾をかくして  
五月雨の衣れを長す夜寝る  
五月雨た雨のこゝしりも五月雨  
五月雨和島にならぶ杉の女  
五月雨の衣れを長す夜寝る  
五月雨た雨のこゝしりも五月雨  
五月雨和島にならぶ杉の女













夕立の雀と川と牛の角  
夕立のあまのふとまの植木賣  
夕立の木の匂いよあせの村  
夕立の石の影の底に金魚池  
夕立の石の山を下りて  
海原やあまの夕立つと雲舟  
夕立の道にこぼす小村は  
所居方宮  
夕立の紅葉溝を流れる

遠海集翁氏のあまの宿り  
夕立の宿をねたるや花乃家  
岩代國飯沼温泉  
夕立の石に迷ふや温泉の煙  
夕立の竹人あまの宿る温泉の煙  
夕立の石の影の底に金魚池  
夕立の石の山を下りて  
海原やあまの夕立つと雲舟  
夕立の道にこぼす小村は  
所居方宮  
夕立の紅葉溝を流れる





夕らや衣はすくふ尼のきき  
夕らや下女干物をうらまへに  
夕らや公儀えに押され川原城  
夕らや傘一本を二三人  
ものすくくならそ夕らやつ山あは  
夕らやのくもあれく向ふか

旅亭

夕らや雨えくく出す下女の歌 ○ ○

作並山中

山音なり夕らや雲の互のく。碧 ○

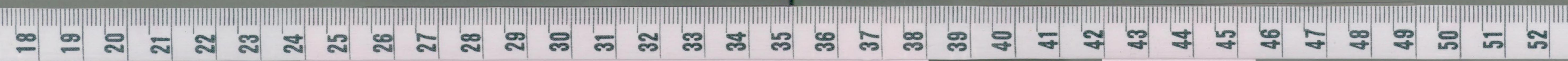
青嵐

植木鉢の縦横に巻れたるきき

夕らや物とりしちのさあまに  
夕らや物の子ちさす市の人  
夕らや傘張傘をたさあまに  
夕らやの又やあけす不二の雪  
夕らやの巾しよさくく棒名に  
向ふ地の山ハ夕らやつりまに

雲の峰

あへたつ上総ハ侍一雲の峰









風

水上に流るる風を  
新らしき垣根つゝきる風を

松山會

國なるはつ子里の風を

女蕉翁のゆるゆるの詠を

まの風を

昔のたけなを戯れに

旅人のしづかき風を

涼風

涼風をあびる木のるのなれ

青田

涼風を袖にしりて

嵐山越え

涼風やわれをひらき吹下す

夏の月

牛にならぬ月を

木をよもて材持の梅を夏の月

娘は三人出するにかなの月

わがそとく狼馬あり夏の月

何れは梅子の由か夏の月

はなはな













夏川

山に昔もけりての昔もけりて  
いづつとや清水流とたた  
清水にもあるや神の名佛の名  
ふ代能く揃すくら水も昔清水  
昔の中を清水に富あり旅を食

作並

山の麓にけりて清水流

陶のちちの石より水の流れあり  
な先にちちの石より出す清水流

くまのこゝろの昔もけりて夏川

流とていづつとや夏川

夏川や水の申なるまじ

夏川や枕にひびく山の音

夏川にそよそよと下りて

夏川や馬撃ちなる松

夏山

夏山をめぐりて昔道普請

作並温泉

夏山を廊下づいての温泉



まじの縁うらりりし小室うれ

滴山

~~氷室~~ ~~た~~ ~~後~~

山一つ一たふ山の中をゆく

夏野

夏の一本のいよなゆき

こけりけは虫のとびつくなゆき

ちらりりと伏勢りなゆき

大磯

低城も石にたたりたるな野山

夏川

氷室

あけさよりほわひやと氷室

一山ハ凡のひやつく氷室

杉梅のつたき氷室山

氷室よりわつけりく有馬

鑄湖温泉

氷室さあぶさ山のりそゆき

鹿袋角

野鳥













方人の氣入の上を 郭公

三平二満積

床柱息もいふに 郭公

上層巴積

浪の流ふおののけさよある

孔子賛

写しおのけさよある

画賛

山畑の真書おののけさよある

うしろむく人もあつかりおの

裸美人圖

吹つけた 襦ユカの夜風や外も

送猿男

時鳥 東海道をいそいで

いそいで 舟をいそいで

病中

夜を成る 葉のしずかに 子規

五妻山 破れぬ

まわりのしずかに 郭公

噴き出す 空の中より 郭公



踏と切りやんをいあらはせ鶴

會津城

落城の時 ~~時鳥~~

~~時鳥~~

金屋に筆 ~~時鳥~~

一月に二夜の劇 ~~時鳥~~

定年の有 ~~時鳥~~

横雲を ~~時鳥~~

病人に ~~時鳥~~

根山

大原や雨の中より時鳥

君の代の不足をいへば時鳥

時鳥なくや雨あけの時の人

をさすの梅もいへば時鳥

惟然坂替 ~~時鳥~~

~~時鳥~~

ゆく時 ~~時鳥~~

歌と市 ~~時鳥~~

王子松 ~~時鳥~~

るの松 ~~時鳥~~



芳原

廊に大鼓のさかひかき

依坪の身ぶ度一かき

かき

傾城画賛

子規顔を格子におあて

かき

かき

かき

かき

さかひかき

辻占の引

傾城画賛

待ちしをな

奥州の暮

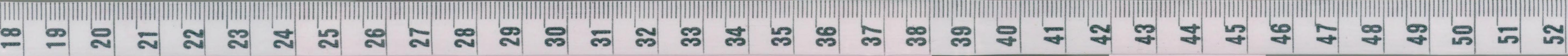
かき

鄭公

太秦

大名の生

春をま

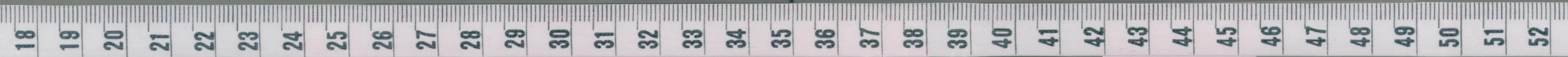




関子鳥

便ぬれたり 時雨の亭の時鳥  
た茶室の上を 鳴きゆく時鳥  
廓を 何の夢見も 陰陽師  
廓を 廻りたる 耳のたゞり  
廓を 果てしなくの 秋の  
廓を けさなき海へ 鳴きゆく  
塔見 して 一帯の時鳥  
廓を 一帯あり 十里は  
大なる 四隅も なくして 時鳥  
月夜に 時鳥

時鳥 江戸に 旅舟の 雨ねり  
あゝ 何れも なくして  
月並に 何となく なくして  
雪は なくして なくして  
一の 糸より なくして なくして  
まの 糸より なくして なくして  
浦六 寺に なくして なくして  
一帯あり なくして なくして  
時鳥 書も なくして なくして 寺の 屋根  
時鳥 なくして なくして なくして 善光寺









老鳥

老鳥の老をなるともわの杜  
~~老鳥の老をなるともわの~~  
老鳥にふる老心数心

根岸

老鳥 若時鳥 今年竹

鶯音入

鶯の音入子うう軽業海

~~鶯音入~~

根岸

音入子うう軽業海

九

鶯音入

水雞

水雞をなるともわの杜  
~~水雞をなるともわの~~

水雞をなるともわの杜

水雞をなるともわの杜

水雞をなるともわの杜

水雞をなるともわの杜

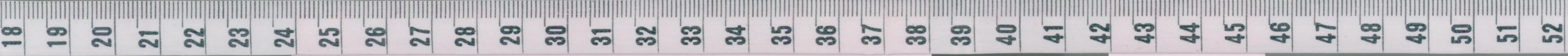
水雞をなるともわの杜

水雞をなるともわの杜

根岸

水雞をなるともわの杜

水雞をなるともわの杜





行々子

~~川柳・月夜~~ 雲あはれこ子

よきのそあはれ共たなほおわこ子

廿八魚の中にあはれこ子 ○

廿四切戸水云つまよあはれこ子 ○

川柳や柳あはれに池は柳一 ○

紫あはれやあはれこ子あはれこ子

川せきやあはれこ子あはれこ子

鶴あはれ川杭がく小なまこ子

猿鳥は浮巢たのつて流れこ子

凡ては浮巢魚と流白の橋

水藤  
方目鳥  
浮巢

蝙蝠

蝙蝠戸は埃あはれに月細

蝙蝠戸は蚊あはれに月細

蝙蝠戸は蚊あはれに月細

松魚

誰人の書きたなほ初松魚

筆後を買ひよる初松魚

依伴のあはれ名は初松魚

日本橋や腰の富士初松魚

初松魚あはれに江戸の松

~~初松魚あはれに江戸の松~~





鮎

初松魚江戸の口には四季の鮎  
初松魚死すもすしはりて  
浦名ると名のつて死る松魚は  
あしをこ松魚は

鮎らんてんあわらなは

鮎らんてんあわらなは

鮎らんてんあわらなは

鮎らんてんあわらなは

方目鳥  
浮良  
鮎

蛇の衣

誰の昔屋を此名のさす場の衣

雨蛙

よしの松をさすて

はしつらにさすて

梅枝川林のものをさす

墓

土をさすの墓から出た墓

吹売をたべてさすわ墓

長屋をさすてさする墓

墓 唾の娘に向ひけり



蚯

あゝ人にせむし  
世の中を借りらばむぢぢ 女巻

旋の流るるよおたあすも西の袖の影  
尼一人袖の名をまを仰り行く  
日光や 中ゆりてはれぬよいあ

山あつてのさしやう

世の中よすまをくくればは袖のく

登

きあぐまに登るるむむあすは海原

蚊

下女おんに登るはすつておるは  
旋やまのまのまの袖たのみ  
木賃といふにせらるは蚊のま  
松のまのまのまにて  
松のまのまのまのまのま

蚊

蚊のまにらんあつて暗ま宿を包む  
蚊のまのまのまのまのまのま  
蚊のまのまのまのまのまのま  
蚊のまのまのまのまのまのま  
蚊のまのまのまのまのまのま





羽織

天人の羽衣さうの羽織りな

松竹やふとくまいたてくまきさうの羽織り

神社新築

松竹やふとくまいたてくまきさうの羽織り

松竹やふとくまいたてくまきさうの羽織り

松竹やふとくまいたてくまきさうの羽織り

松竹やふとくまいたてくまきさうの羽織り

松竹やふとくまいたてくまきさうの羽織り

松竹やふとくまいたてくまきさうの羽織り

蚊柱

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま

血ふくんであきまの蚊のあきま







灯取虫

灯取虫 佛の灯たし焼かれん  
火取虫 書讀む人の罪深し  
山さびのわさび 来りて火取虫  
似地よ死んで見えさう火取虫

蟬

偽正の榎かき 蟬の歌  
因人の道また 蟬の歌  
飛びあつた木に前付て蟬の歌  
電信のねたあつて 蟬の歌  
何の心は 蟬の歌

鶯

朝の鶯を 乾かして鳴く蟬の歌

葉柳よりうらんで鳴く蟬の歌

杜の道 蟬の歌

丸 蟬の歌

さらのの玉川 蟬の名ふれ

帆柱のさき 蟬の歌

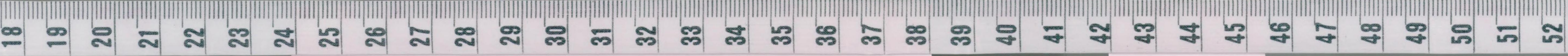
蟬の歌 口木の中

蟬の歌 柳の

蟬の歌 水

蟬の歌 柳

蟬の歌 柳









若葉

野の中にやうらのさき  
~~か~~ 木の傍にわらわのさき  
 公のさき片側舟のわらわのさき  
 ○ 傘たたくき関原まきさき  
 討死乃あつた縁よむ若葉のさき  
 夢のさき入るに本原さき  
~~か~~ 木の傍にわらわのさき  
~~山~~ 山にわらわのさき  
 人もな—とわらわのさき  
 陽のさき(さき)のさき

若葉  
 若葉  
 若葉  
 若葉









~~...~~ 若葉のま...

~~...~~ 若葉の...

王子村

権現みちまのちの若葉は

曲々鳩帰帆 王子八景の一

若葉して毛帆つらなる川一筋

~~...~~

~~...~~

若葉と花の替りの画み

うつくしきねはなりとく若葉は

夏樹之

浅草観音図

鳩の餌を雀のいりや若葉は

上野三宜亭文学談話會

よりあつてり若葉のまの世は

上野公園

とつら〜若葉たつものよ

若葉道 曲〜の電気燈

茂り

~~...~~

大佛の成たさうなるなりは





のひ給ひたり給ひぬと福の程

葉櫻

葉櫻や ~~も~~ 田川  
葉櫻や 冷酒あるを 舞舞奴  
葉櫻や 狂女がえぬひの紅の扇  
葉櫻や 遠き公尊も木隠して  
~~葉櫻や 砥石の浦のり~~  
雨のりかり葉櫻 岳はえ傘うり  
葉櫻や 去野の市所に鳥の糞

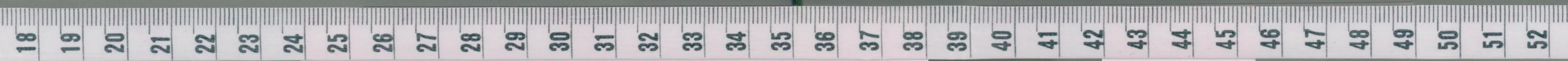
實櫻

夏木立

夏木立之宮ありきいよな處は  
夏木立一若葉の生れをふり  
夏木立中に 結衣の禿舎あり  
~~夏木立~~  
水之宮の女律 げもわくる木立  
下草にらひ入る牛や夏木立  
墓の傍に 杉木立  
うつしや 写すもの影成や夏木立  
鴻の甚ま  
城の幸も ぼちぬ夏木立

夏の盛木

夏の盛木





すまゝに  
なまなま  
村小

木下園

下園や八所五に大悲園  
牛帰る木の下園村一川

仙臺躑躅の岡

兵隊の行列白く木下園

常盤木落葉

流壺やんまといこむおねま  
みりりる松の葉もまや雀鳴く

夏柳

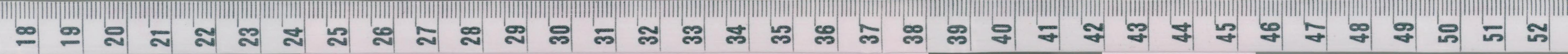
葉柳をつかまかわし小舟  
おららはこ見返り柳夏煙ま

も一火の舞なまらぶ夏柳  
あららいのあはにて

夏柳吹く風吹ておらなり

卯花

卯の花のかたへおまほ  
卯の花の雪やいふは水のし  
卯の花や所のとまらふ善光寺





橋

おの花や牛ひりたる布隨身  
おの花や弱法師の袖に風を  
~~おの花や月あかりさきまの露~~  
~~首あかしおの花は垣の邊に~~  
~~お見ゆ人の妻よしの花柳木~~

常盤木落葉  
夏木

橋の川もた牛入るゆい  
橋や午飼後子何とらん  
橋や風子くさき長谷の里  
橋やあふりにかみもたまゆ中

橋

歌もろをぞ只大木の橋は  
夜は芝居の小色をかけたる橋は

柳花  
栗木

橋やさけくにおのよき自せて  
橋や一虫もゆき旅とて今  
橋やあけの枝切て三味にせん  
橋に遊ぶるゆきもかき

琴持

橋は昔の曲こゝろを

今歌

今歌





合歡花

は葉ハ眠りて過ぎたり合歡の花  
りよみま櫻の木をわ合歡の花  
月がよめたにのみよ合歡の花がよる

桐花

新道や人馬の中の桐の花

栗花

芝草んねや年いこと栗の花  
毛虫にもなりて落ちたり栗の花  
よすけらち花栗匂ふ山の宿  
栗の花は合歡一軒を隠す

榎花

月ひてけしに花の榎

柳花

おのが秋を鳥のさす柳の花  
笑まらぬ年危東な柳の花

萩花

萩花物さし年の萩

百日紅

てりくとわさし鳴る赤の百日紅  
を住すと人かりさし百日紅  
其に花の依城もあり百日紅





石榴花

鬼の子のまじり 頑是なり 花石榴  
下園やカクまー さい花石榴

五月躑躅

まきの中に 五月ついでの盛りし

青梅

青梅や 低地表いて 洗ひぬり  
青梅を やりて 泣きぬり 杜英川

林檎

青梅の ぬたふく ちやの 花  
青梅の 香る こと 金巻る こと けり

林檎

林檎の 香る こと 金巻る こと けり

梅の 実の ありて 黄なる あり 青なる あり

根出年

青梅や 黄梅や ころる 軒らんぶ ○

夏桃

くいながら 夏桃をの りし ぎらう  
夏桃い さいふ 毛の 多きを 甚と せん

李実

虫は みにて 一枚 赤き 木よ うれ  
店さまに 幾日 色 経たる 李よ せん



桑實

桑の實や本房たりづら子順符

青山椒

青山の椒もくもくすけ 青山椒

笋

~~笋やゆぬの横つんぬり~~

笋やれまいたが床柱

笋や垣の横つんぬりて

なまよ 笋をらぶぬぬ

実る中ねの真ん中

君が甚全竹のじこ二三間〇〇

若竹

〇の若竹の笋あやむいぬ

若竹やあやむい顔の雀の子

若竹の面にちやあやぬ

若竹の笋になまよき細い

若竹の直をいとのじり

い〜やまの竹の居らぬ今年竹

深きまのあやむい今年竹

笛替

若竹の若にもや 雀すし



阿新とり子娃あり 今年中

竹出葉 牛の宿在のるちの 前多ふ

梓桐花

梓桐の花園の <sup>空より</sup> 花は白い

茨花

牧田の隙下る中 花は茨

茨花

宿屋た牛の白い中 茨の花  
筆はいる 茨の花垣 其作し

○ 茨さくや根岸の里の貸本を ○

牡丹

茨咲くや園回して牛存ぶ

宵月のたりに暮の黒牡丹

ち。あ。い。ん。の。あ。ら。わ。げ。の。白牡丹

中 ~~に~~ ~~す~~ ~~ら~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~わ~~ ~~げ~~ ~~の~~ ~~白牡丹~~

義仲の ~~い~~ ~~ん~~ ~~の~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~わ~~ ~~げ~~ ~~の~~ ~~紅牡丹~~

純白とらて女を由す ~~ち~~ ~~あ~~ ~~ら~~ ~~わ~~ ~~げ~~ ~~の~~ ~~牡丹~~

鬼沖 ~~い~~ ~~あ~~ ~~る~~ ~~ま~~ ~~し~~ ~~ま~~ ~~せ~~ ~~の~~ ~~牡丹~~

植本を ~~に~~ ~~た~~ ~~ら~~ ~~せ~~ ~~ん~~ ~~の~~ ~~牡丹~~

会屋の ~~ま~~ ~~ら~~ ~~に~~ ~~と~~ ~~り~~ ~~の~~ ~~牡丹~~



芍薬

雪河に一掃ふる牡丹  
楸干に楊貴妃眼る牡丹  
大きき赤の顔乃牡丹  
似城の瓶に一掃みし牡丹  
金屏や一掃牡丹瓶の中  
~~牡丹のあらしし~~  
牡丹の花に牛の角  
牡丹を美人の野ゆえん  
白牡丹三十六宮の夕  
牡丹

紅花

芍薬はすしすたる美露  
~~牡丹のあらしし~~  
似城の瓶をつくる中紅の花

燕子花

牛飼名遠はしめて燕子花  
うらま目よのむし燕子花  
花一つはたおれし燕子花  
~~燕子花~~



似障が筆のすまし世並子花

病中

~~菊の自らの道ゆへに人杜若~~

八橋園

~~夢のつれづれに花を~~

花菖蒲

~~風吹くそとく人の心も~~

那須野

~~おろしなる昔を~~

病中

花菖蒲

蓮葉

人の木で咲くことり子あり 花菖蒲 杜若

八花

~~ありな~~ 八花のすまし

牡丹花

浅香泥

~~花のそと~~ 花のそと

萍花

萍のつれづれにさなる山嵐の  
風吹て萍おく花ながら  
萍の横幅しるぬほ世に





傾城替

萍のさざりれやせむし風し

河骨

○河骨の水をせせむる大を水碧○  
河骨の花ほくろをえんた  
軒げや河骨のむらびの結

菱花

六角にまきみりりて菱の花  
かきよつて菱のなほく小地ル

蓮葉

卷葉上に高く浮葉下に廣がる蓮也此時

蓮花

白蓮の香にむせかへる小庵は  
~~かたなり~~な遊女の後世の蓮の敷  
かたなりには花吹きこゆる蓮は  
月を湛へて錦鯉露の玉をけらひあす蓮  
蜻蛉や蓮の女に一つ一つ  
の水をすくると地や蓮の花  
蓮さくや水すくると水濁り  
白のくや蓮の花笑くさるすし





山石切

蓮の花さくらや淋しき停車場

追善

極楽や清水の中に蓮の花

遊女替

泥水をくみせぬ 蓮のさくらや

ちりくけバウのさくらや蓮の花舟

蓮あて午のさくらや蓮の花舟

蓮持を人の中にもぬ一人

蓮の情 顔なり 蓮の花

紫陽花

門前の老婆利を食ふる蓮の花

紫陽花や浮物あつて紫陽の裏

紫陽花や赤にたつて紫陽の裏

紫陽花や原や車の砂もれぬ

紫陽花や大さくらにたつて紫陽の裏

紫陽花やけなだにたつて紫陽の裏

紫陽花の根をたつて紫陽の裏

始めて紫陽花をたつて



幸陽花やもふハるのしる色子雲

鉄刀花筒画賛

リヤ切らんあすは花何のを

傾城林見

紫陽花や中の子の祇まの煙

撫子

撫子やなまあちかしの牛のふん

~~撫子や中庭のけのき~~

撫子の何ある店大井何

撫子の我から伏して笑たり

ぬるんば撫子多しと花

花結に撫子咲きし山あは

牛の子の身なりや中撫子

侍の腕に古風の袴をもち

すせるとして

撫子やものたよりかき書たり

羽あわ

○ 當きく撫子のたは角けり

陸前國愛子村

見も片らぶ愛子の村のぬ撫子





百合花

十画賛

田舎旅宿  
接子のつらさるる石に松をたて

鬼百人や草花のつらさるる  
山も今や中岩のつらさるる  
結いこんで垣よりさるる  
のびたまきしつらさるる  
あまきまきしつらさるる  
うつむくい鬼事たつらさるる  
下園たつらさるる  
山も今や中岩のつらさるる  
結いこんで垣よりさるる  
のびたまきしつらさるる  
あまきまきしつらさるる  
うつむくい鬼事たつらさるる  
下園たつらさるる

苜蓿草

葵

田舎旅宿

つらさに松よりさるる  
鬼百人や草花のつらさるる  
那須

苜蓿草やまきしつらさるる  
雑の堀にのつらさるる  
御湯殿のつらさるる  
いづれか





苺子花

花一つく 蛇ちり 々々  
順に穿く なるまに 葵沙  
絃が ちりの物干 侍 一花 葵  
心中の けいけい 誠のけいけい の花  
は夏もめでたう ちりぬけい の花  
入相や 法件 一たる 苺子坊主  
一休や 苺子の坊主を 見せたる  
な 苺子に 親子五人の 世帯  
博延 苺子  
ちりぬけい 苺子

夕顔

夕顔や 表の けいけい 一人  
夕顔や 牛を けいけい 留の 苺子  
夕顔や あら 聖あちこち 苺子の 娘  
夕顔や 三時の 苺子 による 盲馬  
夕顔に 女世帯の けいけい 一人  
夕顔に 旅と 苺子 一人 現れ  
夕顔に 何處 苺子 一人 現れ  
田舎 傾城 賛  
夕顔に 昔の 小唄 あり 一人





書顔

夕顔にめしつふあゝのいな

~~書顔にめしつふあゝのいな~~

~~書顔にめしつふあゝのいな~~

~~書顔にめしつふあゝのいな~~

~~書顔にめしつふあゝのいな~~

山甲の季に尺昼顔ありんあり **碧の**

~~山甲の季に尺昼顔ありんあり~~

~~山甲の季に尺昼顔ありんあり~~

釣鐘草

風吹くや釣鐘動くはるのね

夏菊

夏菊のや土釜の土に癒さる

有所思

人知らばらん夏菊をさすこ

平簪花

平簪花のや土釜の土に癒さる

十葉丸

十葉丸のや何を極るも土釜の土に癒さる

一葉をたぐ十葉丸の白ひら



苔花

金園や金箔をけし苔乃花

鴻の甚む

石くまむし床凡此詠や苔の花

相黒

其骨に苔の葉くさし小葉

凡蘭

凡蘭や軒にもくさし木の枝

凡蘭の葉はくさし木の枝  
凡蘭の葉はくさし木の枝

凌霄花

名も知らぬ木に凌霄のさかりし

凌霄花一つさきり花のうら

飯阪妓廊

凌霄やからする縁乃小依城

葱

細帯の女端居すゆり葱

一ツ葉

一ツ葉の二葉の時をんかはやし

一ツ葉のゆり心をさしあむ

一ツ葉の風にもくさし





蓴菜

藍川

~~蓴菜の味は~~

世の中をめぐりて

引けむきかきま

藍川の中をめぐ

~~蓴菜の味は~~

藍干

藍干や一筋あけしはらり

海薺干

鐘金やふしのうらに

葎草

葎草や遠家に見人の暮多し

早稲

~~葎草や~~

惟花馬あまのうら

麥

きらりと山をく

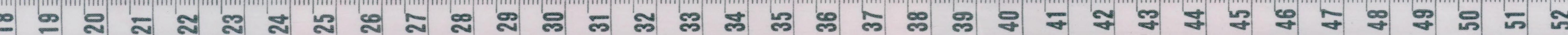
麦の穂にまを

一人子の風揚り

麦の中を下る旅

川麦のほろ山と

麦川の中を渡る





暮

うき人にくらせしんだんたのむ

暮

秋のまを念事にとたる桂

川

わゆるん川

麻

あちの麻

瓜

瓜てんよきのひ

早苗

早苗の早苗とさなる一人

早苗

植いよん知る早苗の一たがね

暮

雪院の傳ハまをつくところ 碧の

暮

露の亭

風はのちや整にましき年の妻

たふしけり

わくろくは世の外の人

流をぬき世にゆるるそにふもぬ

薄きおぼえあるあつみの





覆盆子

旅人のついでに  
けりくこと  
須知のなる  
旅人のついでに  
旅人の組はひあ  
はつたれ組道を  
いちごともも  
旅知れを跡に  
いちごを年ら  
○

瓜の花

瓜

花を遊ぶ  
何やらの花  
瓜二つまた  
瓜ぬすむあ  
やん

甜瓜

狂言のついで  
旅傳のついで  
はあま





おぼろしやめし真のまをむかん宵月夜

奥州旅中 二句

ささのちく木のこやせはまきこり

せみ果はつひのけこやせむ赤んぼ

寒山のまをなみやすんで

我いすこしをせぬの初はこるホ

茄子

浪人の畠にたせる。茄子のたま

たれこころいし水。少女が子大茄子

茄子

茄子のたまをなみやすんで

胡瓜

さのあまにそやんえもひ。胡瓜は

赤らにせはりやすき。胡瓜は

夢ぬにそい。胡瓜をまにそかぢる

見せれこし

痛らむせが。既たにもうらま。胡瓜は

小角豆

半粒んのかつこいさ。りれさげ垣。○

南瓜

似れもたぬ。瓜の。あでせれけり





秋  
立秋

骸骨に何やらひびく今朝の秋  
まくらに早の笑いや今朝の秋  
むくねや身あふいつ今朝の秋  
老後の拂子秋うま今朝の秋  
創るて牛馬も人々今朝の秋  
湖のいつそりと今朝の秋  
秋立つと知らずや人の水鏡  
禅寺に秋立つ壁の破れ

早稲草

早稲草 夏るきひにひびく  
早稲草 夏るきひにひびく

時  
茶子  
...





立秋  
秋

初秋の美を仰ぎあさん今朝の秋

秋やけさめあひひたるも花

凡冷のちらりごと秋の立ちり

今朝の秋之句のたのしみは

衣帯に袖懐に秋の立ちり

ひらりと秋の立ちり

西宮と北土のしよしけさの秋碧の

最上川

秋の立ちり

旅人や秋立つ所の最上川

初秋

旅の秋立つつやう上のはち

えそい店小がえんて秋来り

初秋の馬洗ひけり最上河

初秋や出ぬ人のさる

初秋や背たを流し最上河

初秋や楳に詰る松つくり

初秋のちかちか出づる

初秋の藤ゆきたる

初秋の

七にの





文月

初秋に大草がらりと落ちし

文の如硯にうつす 早の光

~~あふたに思ふ時のまじりて~~

~~まのののめいぶちの弁弄~~

七夕

星の夜に唯も和川を渡るる

盆過

盆過の村静らなり 核廻し

残暑

学校のせけんやすむ 涼る  
家の向き一西りに 涼る 暑さを  
しの勢を又いふて 直す 涼る 暑し

最上川

逆帆の風よつ 暑きの 涼りけり

出羽の秋の時 残暑 涼は

ゆき 涼る 涼る 涼る 涼る

たる 涼る 涼る 涼る 涼る

まはる

松風の 涼るを ぬき 涼る 暑し



すさし

水鏡の色すさし

妙義山

妙義山

雨少し月ほゆる

肌寒

肌寒き花の

湯田温泉

湯田温泉

肌寒み井の

こゑ寒

きめく柳の風乃

朝寒

朝寒や青菜ちりる市の法

朝寒や看板砂る氷店

身に入む

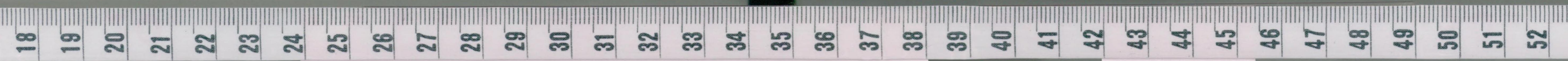
鳴き翁を

俳諧の吐身に

秋寒

雨の

秋さし眼の光は鬼





夜寒

夜寒  
夜寒

銭湯に湯咽のくわゆる夜寒は  
~~平家やしく小娘の顔は夜寒は~~  
~~塵一きき入息同く夜寒は~~  
~~小比古のけさるひつて夜寒は~~  
~~傷一人並か同化ある夜寒は~~  
~~老傷の南郎の夜寒は~~  
~~壱や少しとも火も夜寒は~~  
~~向い切のとも一清のゆく夜寒は~~  
~~挑行の劇へ通ふ夜寒は~~  
~~お切て釘を叩きたる夜寒は~~

書中の跡畧にうける夜寒は  
~~文松のくわゆる夜寒は~~  
~~木海をあらひかへて夜寒は~~  
~~槍の穂乃あつに光る夜寒は~~  
~~夜寒をわきまをちし夜寒は~~  
 品川  
 似城乃海を背にす夜寒は  
 袖田祭  
 夜寒の竹天王の勢い

